



交通安全事故のない生活を送ろう
第44回交通安全全ポスターコンクール表彰式 10月8日

交通ルールについて広く意識を持ってもらおうと市内小学生に交通安全のポスターを募集したコンクールの表彰式（交通安全母の会下妻支部主催）が、千代川公民館のホールで行われました。



しっかりと賞状と記念品を受け取る受賞者

秋の山野草展が、小貝川ふれあい公園ネイチャーセンターの展示室で開催されました。下妻市自然愛護協会の会員で山野草愛好家の約30人が、同展のために丹精込めて育てた鉢植え300点が来場者の目を引き付けていました。



秋を彩る山野草に見入る来場者（9月25日）

秋の深まりを感じさせる山野草
秋の山野草展 9月25〜27日



翼を広げるコブハクチョウ（10月24日）

コブハクチョウ 水面を優雅に砂沼に白鳥1羽飛来 10月14日

平成26年9月につがいと思われるコブハクチョウ2羽が飛来したことに続いて砂沼に10月14日、コブハクチョウ1羽が飛来しました。

1羽ながら優雅に砂沼湖面を泳ぐ姿は、砂沼を散策する人や地元住民、子どもたちの目を楽させています。

平成26年1月にコブハクチョウ4羽が飛来してから3期連続のことで、砂沼の遊歩道をウォーキングしていた60代の女性は「今年は初めて見るけど、毎年来るようになった。今は1羽のようだけど、2羽、3羽と増えるといいわね」と白鳥が増えていくことに期待を寄せていました。



ポピーの種をまく花万ジュニアスタッフ

冠水した花畑でもポピー咲かせたい
鬼怒フラワーライン種まき 10月18日

9月の関東・東北豪雨で冠水した鬼怒フラワーライン（鬼怒川大形橋上流左岸河川敷）の花畑で、ポピーの種まきとごみ拾いが行われました。同敷地を管理運営する「花と一万人の会」の会員や地域住民など約120人が参加しました。

「荒れ果てた花畑を見たときには、ポピーを一度あきらめたが、来年5月に25周年を迎える『花とふれあいまつり』を思うと、どんな形でもいいからポピーを咲かせたいと思った」と花畑に情熱をかける飯島順一会長。豪雨で表面のやわらかい土が流され、大小の石や流木が散在する花畑を種がまける状態に戻すため、ショベルカーやトラクターなどの重機を持ち込み、会員約10人で3日間の復旧作業に汗を流しました。

毎年5月に色鮮やかなポピーが咲き誇る鬼怒フラワーライン。平成28年5月15日（日）に開催される「花とふれあいまつり」は25周年の節目を迎えます。

確実なポンプ操法披露
第66回茨城県消防ポンプ操法競技大会県西地区大会 10月18日

消防団員が日頃の訓練の成果を競う茨城県消防ポンプ操法競技大会県西地区大会が、下館運動公園で開かれ、県西10市町のうち8市町から8チーム・選手48人が参加しました。平成27年9月の関東・東北豪雨の影響により被害が大きかった常総市と境町は出場辞退となりました。

下妻市は第6分団から精鋭6人の選手が出場。確実な動作で約20メートルのホースを3本つなぎ、正確な放水で10メートル先の的を倒しました。指揮者を務めた山中一博さんからは「緊張しながらも練習の成果は出せた。5月からの厳しい練習を通じて団員の団結力が強くなった。この団結力を消防活動に生かしていきたい」との話が聞けました。



正確な操法を披露する第6分団の選手たち

スポーツ&カルチャー
がんばる小・中学生!!

- 小学生
■第32回全日本小学生ソフトテニス選手権大会茨城県二次予選会 第4位 個人女子ダブルス 溝口 楓(下妻小6年)・高橋 陽香(つくばみらい市)ペア(土浦ジュニアソフトテニススポーツ少年団)【全国・東日本・関東大会出場】
■第32回全日本小学生ソフトテニス選手権大会 5位入賞 女子団体 溝口 楓(茨城県選抜・下妻小6年)
■第34回関東小学生ソフトテニス選手権大会 第3位 女子団体 溝口 楓(茨城県Aチーム・下妻小6年)
■平成27年度茨城県交通安全ポスター作品コンクール 茨城県教育委員会教育長賞 宇津野 愛扉(宗道小5年)
中学校
■JOCジュニアオリンピックカップ 第29回全国都道府県対抗中学バレーボール大会 茨城県選抜選出 染野 輝(皆葉・結城南中2年)
■平成27年度茨城県統計グラフコンクール 茨城県教育委員会教育長賞 川面 結(下妻中2年)、嶋田 夏海(下妻中2年)

ほっとしポ・ライン Hot Repo Line 市民の声

下妻市障害者自立支援協議会の委員長や特定非営利活動法人茨城県ポーターズ協会の会長を務め、保健・医療・福祉、子どもの健全育成にかかわる活動に取り組む谷島邦雄さん(下妻乙・栗山)からのお便りを紹介します。

10月10日(土)午後1時より下妻駅前通りにあるコミュニティカフェぱらっとほーむで、障害者理解促進啓発研修事業として開催された「うつ会議」に参加しました。

病名だけは知っていても、その実態や患者さんへの対応について等わからないことが多く、誰でもが発症する恐れがある「うつ病」について、その正しい理解や接し方について広くみんなに知って欲しいということで、しもつまnavi代表の塚田和司さんが企画し、下妻市社会福祉協議会が共催して開催されました。

当日は、うつ回復体感カードゲーム「うつ会議」を開発、販売している株式会社小石川の広瀬真之介氏を講師に迎え、講演と「うつ会議」を用いてのワークショップ

「うつ会議」に参加して

が行われました。広瀬氏ご自身がうつ病であった体験をお話になり、うつ病の実態について少しですが知ることができました。印象に残ったお話しは、「うつ病の人に『頑張る』と声をかけることはよくないと言われているが、何もしないで放って置く方がもっと悪い」ということでした。カードゲームはそれぞれの役割を持った人がどのように当事者と関わり、適切な支援をすることができるかということを体験しました。

ストレス社会といわれる今、正しい知識を持ち、重症化しないよう適切な支援をしていくことの大切さを学ぶ機会となりました。



うつ回復体感カードゲーム「うつ会議」を体験する参加者たち